

春号目次

- 運営協議会は今
温故知新～区民の自主運営活動
の五年間とこれから 委員 河合良
治
運営協議会スケジュール
- 活躍する文化プレーヤー
文化プレーヤーQ&A
プロジェクトQ&A
- Event Calendar
運営協議会の催し案内
公募による事業／直接事業／
年間を通じて、いつでも参加できま
す！
廊下ギャラリー出展者募集
- Culture Information
学校・保護者・地域との連携で子ど
もたちを守れ！ 馬込第三小学校
表紙の人物 小林古径
登場予定だった表紙の人物たち
座談会：情報誌「おた文化の森」
の5年間

バックナンバー

[vol.12夏号](#)[vol.13秋号](#)[vol.14冬号](#)[vol.15春号](#)[vol.16夏号](#)[vol.17秋号](#)[vol.18冬号](#)

お知らせ

お待たせいたしました。インターネット版OBM最新号を公開いたしました。永らくご愛読いただいた情報誌も今号を最後に大幅リニューアルをいたします。詳しい情報は順次アップいたします。

大田文化の森運営協議会Webサイト

もご覧下さい。

ご意見ご感想はこちらま

で bunkanomori@nifty.com

春、何か新しいコト
始まる予感の季節。



運営協議会は今

温故知新 区民の自主運営活動の五年間とこれから 運営委員 河合良治



区長を囲んで、運営協議会委員

「大田文化の森運営協議会」は、四月から六年目、第二期最終年度の活動に入ります。区民文化活動支援施設「大田文化の森」開館以来、事業運営を任された運営協議会は、区民による自主的運営と実施を実現するために、文化プレーヤーからなる実行委員会を組織して直接企画を実施し、そのために発生した様々な事務的必要性を解決するために、専任スタッフによる事務局を整備してきました。第二期三年の最終年度を迎えるにあたり、過去に光を当てて、今後の歩む道筋を探ります。以下、第一期報告書「おわりに」から、初代会長、野村 市氏の文章を引用します。

『大田文化の森の建設を構想する段階で、すでにその運営には区民が自主的、自立的に参画していくことが大切であるといわれてきました。

2001年11月3日、いよいよ文化の森がオープンしましたが、その年の二月には、大田区は公募委員八人を含む区民一五人の運営協議会を設置しました。この区民の運営協議会は、公募により区民の文化活動を支援する企画や、運営協議会が自ら直接企画を実施するプロジェクトを、自主的に決定し、実行することになりました。

何分初めてのことでしたので、運営協議会は夜遅くまで議論をしながら企画を練り、実行をしてきました。何よりも文化活動を区民自らが自主的に決定して、それを実行することは、今までにない新しい試みであり、新しい活動でありました。

これは文化の森という区立施設を舞台に、区民が文化活動を展開するという、まさに区民と行政との協働の第一歩でありました。

この三年間、運営協議会にとって最大の収穫は、区民が文化活動を自主的に決定し実行したことと、区民と行政との協働のスタートであったといえましょう。

これから第二期に入る運営協議会が、区民の文化の発展のために、この区民の自主決定と、区民と行政との協働を、さらに一層拡大発展されるよう期待してやみません。』（「大田文化の森運営協議会報告書」2001年度から2003年度 21ページより）



初代会長 野村氏

ここには、第一期の評価として、

- 一、区民の自主決定
 - 二、区民と行政との協働
- の二点が挙げられております。

現在、大田文化の森では、直接事業の運営・実施においては、文化プレーヤー・実行委員会による自主的改革が活発に行われ、また、管理においては、財団法人大田区文化振興協会が指定管理者に決まりました。

大田文化の森運営協議会は、今後も、社会変化のニーズに応じるための準備をしつつ、前述した二点の拡大発展に努めていくことが必要です。



実行委員会の様子

運営協議会スケジュール

4月1日(土)～6月30日(金)のスケジュール

- 文化会議(第1・3金曜日19:00～21:00)第2集会室 4月7日・21日、5月19日、6月2日・16日
*文化会議は運営協議会の最高議決機関で公開です。いつでも傍聴できます。
- 役員会(文化会議のある週の火曜日13:30～15:30)控室 4月7日・21日、5月19日、6月2日・16日
- 実行委員会
 - 芸術事業プロジェクト(金曜日19:30～21:30)4月28日、5月26日、6月23日
 - 誰でも楽しめるプロジェクト(月曜日19:00～21:00)4月3日、5月1日、6月5日
 - 子ども・若者プロジェクト(金曜日10:00～12:00)4月14日、5月19日、6月16日
 - まちづくりプロジェクト(木曜日10:00～12:00)4月6日、5月11日、6月1日
 - 異文化交流プロジェクト(木曜日18:30～20:30)4月20日、5月18日、6月15日
 - 収穫祭プロジェクト(水曜日19:00～21:00)4月19日、5月18(木)、6月21日

活躍する文化プレーヤー



文化プレーヤー
 Q & A

文化プレーヤーに興味はあるけど、
 どんなことをやっているのだろう？
 そんな疑問にお答えします。

- Q1. 文化プレーヤーってなに？
 「大田文化の森運営協議会」の事業に参画するボランティアの総称です。
- Q2. 文化プレーヤーになるには？
 ボランティアの意思ある区民ならだれでもなれます。事務局で所定の申込用紙に記入し、登録してください。
- Q3. どんな活動ができるの？
 aワンポイントのボランティア
 企画実施当日の受付、写真撮影、ビデオ撮影、チラシ印刷・配布、印刷物送付・配布作業など。
 b編集ボランティアとして
 「情報誌」「文化プレーヤー通信」の取材・記事作成・編集など。
 cプロジェクトに入り、実行委員として企画実施に参加する。
- Q4. 活動日数は？
 月一回数時間から、毎週・毎日？ のようにまで、関わり方によりいろいろです。
- Q5. 有償？ 無償？
 無償です。「大田文化の森」は、大田区立の区民文化活動支援施設です。文化プレーヤーは、ここで活躍する文化創造・発信の主体者です。
- Q6. 文化プレーヤーは、運営協議会の委員になれるのですか？
 なれます。運営協議会委員は区長から委嘱を受け、「大田文化の森」の事業を運営・実施する責任を持ちます。任期は一期三年で、区報で募集が発表され、区民ならだれでも応募できます。現在、第二期三年目ですので、今年は公募採用の年です。「大田文化の森」での活動経験ある文化プレーヤーは、適任と言えます。関心のある方は区報の募集記事に注意して、ぜひ、ご応募ください。



プロジェクトQ & A

- Q1. プロジェクトにはどんなものがあるの？
 現在、年間を通して活動する六プロジェクト(芸術事業、誰でも楽しめる、子ども・若者、まちづくり、異文化交流、サロン交流会)と、全館または複数の部屋・ホールなどを使用して、一～二日で行う三プロジェクト(カラオケ・盆踊り、収穫祭、たねまき祭)があります。
- Q2. プロジェクトではどんな活動ができるの？
 主に、次の三種類の活動があります。
 a実行委員として事業運営に参画する。
 b企画提案して実施する。
 c企画をサポートする(当日の受付、舞台裏方など)

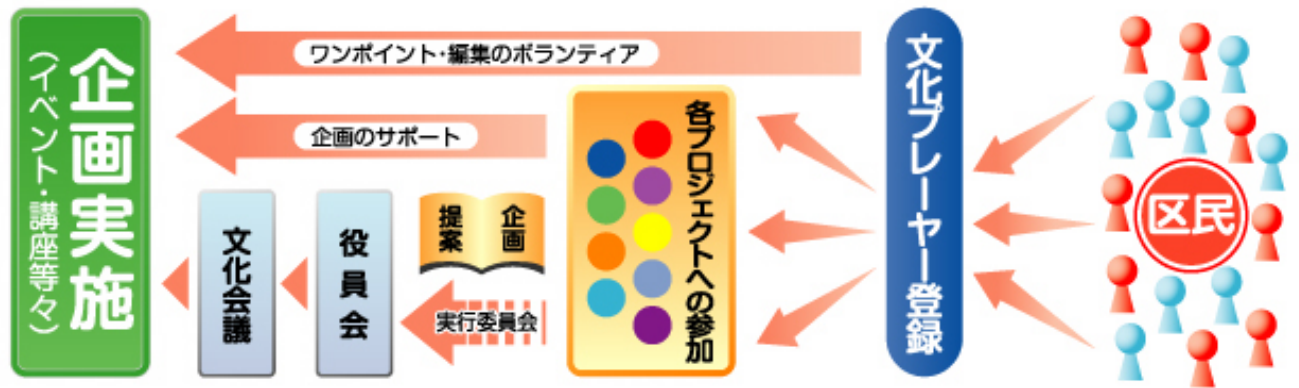
Q3. 実行委員はなにをするの？

実行委員会として直接事業を、協議・決定・実施し、また、そのための運営を担います。

Q4. 実行委員にならないとプロジェクトに入れないの？

入れます。文化プレーヤーに登録して、希望するプロジェクトの実行委員会の承認を得ればよいのです。

文化プレーヤーの登録から企画実施まで



大田文化の森運営協議会直接事業
年間を通じていつでも参加できる主催事業

大田文化の森運営協議会公募による事業

■公募による事業とは

区民の文化活動を支援するために、実施したい企画、また、運営協議会に実施してもらいたい企画を募集。団体や個人が実施する企画に、使用施設・宣伝手段などの助成をします。

■家族のために学ぶマネー講座

「失敗しない保険の見直し」「教育資金」「資産運用」について学びます

□開催日時：4月27日、5月25日、6月22日（各木）10:00～11:45

□定員：抽選で15名（子どもを持つ女性）

□参加費：2,000円

□申込：4月6日必着

■ママと一緒に音遊び！

ママと一緒に歌い、体を動かし、リズムに乗ることで感覚運動を身につける講座。

親子のコミュニケーションを図ってみませんか

□開催日時：5月12・19・26日、6月9・16・23日（各金）10:00～11:00

□定員：抽選で9組18名（1歳半～3歳未満）

□参加費：5,000円（親子で）

□申込：4月21日必着

■おしゃれに飾ろうドライフラワーのリース

ドライフラワーのリース、トピアリーなどを作ります

□開催日時：5月23日、6月6日（各火）9:30～11:30

□定員：抽選で20名（主婦）

□参加費：2,000円

□申込：4月28日必着

■みんなおいでよ語りの世界

尾松純子の語りの世界。第1部：親子で楽しむおはなし会 第2部：大人のための語りの会

□開催日時：6月3日（土）13:30～16:30

□会場：大田文化の森ホール

□チケット：小学生以上1,000円（幼児は有料保育先着15名、要予約）。大田文化の森にて4月10日10:00から発売

■アートと音楽 みんなでつくる絵巻物アニメーションライブ

その時みんなアーティスト！！大田区在住の若手アーティストの指導で、みんなの絵が絵巻物に大変身。

アートと音楽の新しい世界を体験してみませんか

□開催日：7月2日（日）

【1部】ワークショップ13:00～15:00

□参加費：500円

□定員：抽選で30名

□申込：6月16日必着

【2部】作品上映＋音楽ライブ15:00～18:00

□会場：ホール

□チケット：500円。大田文化の森にて5月10日から発売

●申込・問合せ先●

〒143-0024 大田区中央2-10-1 大田文化の森運営協議会まで

電話：03-3772-0770／FAX：03-3772-0704

■往復はがきに「講座名」・氏名・住所・電話番号（FAX）をご記入願います（1枚のはがきに1講座）。

申込多数の場合は抽選となります。

■ホール・多目的室で開催されるイベントのチケットは、原則自由席で、発売は大田文化の森受付になります
(電話:03-3772-0700)。

大田文化の森運営協議会主催事業

■主催事業とは

区民が自ら学び、演じ、交流し合って、新しい文化を創造し、区民参画による管理運営を実現するために、実行委員会(9プロジェクト)で主に企画し、実施する事業です。

■ファンタジーの森

ファンタ爺さんと「音読の会」メンバーによる「語り」と「物語」の口演。声のお楽しみがいっぱいの講座

□開催日時:第3土曜日10:00~12:00

□定員:30名

□参加費:募金(任意)

□申込:随時受付(見学可)

■音読の会

子どもへの正しい日本語の伝承を目標に発声と読み方を学ぶ講座です

□開催日時:第2・4金曜日10:00~12:00

□定員:30名 □参加費:募金(任意)

□申込:随時受付(見学可)

■明日があるんだ、鈴は鳴る~すずなり商店街奮戦記PARTIII~

区民参加の演劇公演をプロの手助けで上演する。小学生から70歳のご婦人まで広い年齢層の方々が参加しています。

□開催日時:4月7日(金)19:30~、4月8日(土)13:00~、17:00~

□会場:大田文化の森ホール

□チケット:2,000円(中学生以下1,000円)大田文化の森にて発売中(当日券2,200円、中学生以下1,000円)

■五節句に因んで~かしわ餅を作ろう

端午の節句に因んで、柏餅を作り、抹茶を点てて皆でいただきます

□開催日時:4月15日(土)13:00~16:00

□定員:抽選で30名(6歳~15歳、未就学児同伴可)

□参加費:300円

□申込:4月3日必着

■こども落語まつり

前年度実施した「こども落語家養成講座」に参加した小学生の落語発表会。講師の竜楽師匠の一席も楽しめます

□開催日時:4月16日(日)9:30~11:30

□会場:多目的室

□チケット:300円。大田文化の森にて発売中

■異文化交流コンサート~ブルガリアの音楽と日本歌曲

ブルガリアの民族音楽と西六郷少年少女合唱団によるブルガリアの歌、大田文化の森合唱団による日本歌曲を演奏し、交流を図ります。

開催日時:2月11日(祝) / 開演14:00~ / 会場:大田文化の森ホール

チケット:1000円。大田文化の森にて発売中

■手話劇公演

毎月水曜日に練習をしている「手話Dream」の成果を年1回ホールで発表します

□開催日時:4月29日(土)18:00~20:00

□会場:大田文化の森ホール

□参加費:無料(当日直接会場へ)

■教室の中の気になる子どもたち

軽度発達障害児及び家族、教育関係者等への支援、情報提供のための講演・学習会を開催します

□開催日時:5月6日、6月3日、7月1日、9月2日、10月7日、11月4日、12月2日、

1月6日、2月3日、3月3日(各土)13:30~16:00

□参加費:3,000円、1回(300円)の参加も可

□定員:抽選で15名(軽度発達障害児及び家族、教育関係者、有料保育付)

□申込:4月24日必着

おおたの学校

学校・保護者・地域との連携で子どもたちを守れ！

～子どもを犯罪から守る活動について大田区立馬込第三小学校・鈴木昌枝校長に取材しました～

■ 子どもたちの安全を守る
 まずその大きな取組みとしてはMS
 P(馬込セーフティパトロール)で
 す。

平成一五年に馬込地区の町会や
 商店街が参加して防犯組織として
 発足し、週二回の地区内の定期巡
 回や、不定期に公園などを巡回し
 子どもたちの安全をチェックする
 他、小学校の登校時のスクールゾ
 ーン警備もその活動の一環です。
 揃いのベストと帽子、青色回転灯の
 装備が認可された車両二台で日夜
 活動しています。

次ぎにワンワンパトロールです。毎
 朝校門で犬のラッキー君が校長と
 一緒に児童を出迎える他、二十四
 ほどの犬と飼主さんがボランティア
 で朝夕の散歩時にワンワンパト
 ロールの印を付けて周辺を犯罪防止の目となって見回っています。

他の活動としては、PTAが平成一六年度より、希望した会員の携帯電話に区からの情報を緊急
 メールで発信したり、ボランティアで登校時の旗振りと安全確認や点検活動をしたりしています。
 また、周辺七町会にお願いし、児童が下校する時間帯に在宅している方々に、家の周りの散歩
 や家の前で児童の下校時の安全確認をして頂いています。

そして、一連の活動について、大田ケーブルテレビや青少年対策委員会の広報紙やホームペー
 ジ、新聞販売店が発行する情報紙などを通じて地域の方々に知って頂くためのアピールをしてい
 ます。

■ その他の地域とのかかわり

地域との交流として、児童が学校でシクラメンを栽培・販売し、チャリティー募金としてユニセフに
 寄付しています。

PTAのボランティアによる図書室開放、お父さんの会によるパソコン教室を行っています。また、
 敷地内にある茶室(室生犀星の離れを移築)で、茶道教室を開催して下さる地域の方がおり、
 子どもたちも多く参加しています。

このように地域との繋がりによって、学校は支えられています。



子どもを見守る地域の大きな目

(文化プレーヤー 菅原正信)

表紙の人物 小林古径



小林古径(日本画家)

日本近代美術史上、大きな存在である小林古径は、1883(明16)年新潟
 県高田市に生まれた。本名は茂。父・母・兄を亡くし一歳で妹と共に
 孤児となる。「古径の絵は冷たい」と評されるのは幼年期の暗い孤独
 感、または雪深い風土が深く根ざしているからに違いないといわれる。
 画才があった古径は、17歳で上京し、明治画壇で活躍する少壮気鋭の
 画家、梶田半古に入門する。鏑木清方は古径について「少し老けてむっ
 つり、弊衣破帽のかまわない風貌で沈思の人であった。多く考えて深く
 究め、少しく描く」と回想している。原富太郎(三溪)、岡倉天心との出会
 いは古径を新境地へと飛躍させた。1915(大4)年、大森新井宿に移転
 し、馬込には画室を建てる。

頑健だった古径も晩年は病弱となり、1957(昭32)年4月3日74歳の生涯

1883～1957 新潟生まれ

れ

を終わる。

万福寺バス停から坂をくだった閑静な住宅地に古径の名を偲ばせる建物がある。ここに室生犀星や画家たちが集ったのだろうか。

(文化プレーヤー 永島俊子)



座談会: 情報誌「おおた文化の森」の5年間
編集に関わったメンバーが、創刊からこれまでを振り返りました。

出席者 加藤光、河合良治、菅原正信、山田皓一、吉岡康子、大間俊雄、永島俊子、佐藤佐智枝
司会・進行 河合良治

司会 この度、これまでの季刊情報誌を取りやめ、八月よりイベント案内を主とした隔月刊四ページ(予定)の軽装版とし、他に年二回情報誌を出すこの方針が決まりました。そこで、これまで編集に関わってきた方々に集まってもらい、語り合おうということになりました。

司会 まず、創刊のいきさつから。
加藤 広報部会で発行することに決まりました。情報誌を文化の発信基地の媒体とすることに決まり、大田区の文化発信に見合ったものにしたいと考えました。

吉岡 中身はどうするか。印刷所の編集経験者から教わりながらスタートしました。情報発信と読み物を合わせたものに。区と協議し、すべてゼロから自分たちで組み上げていきました。今までになかったもの、後世に残るものを出したいと思いました。

司会 協賛広告についてはどうでしたか。

山田 文化創造の拠点と文化の発信が目的で、情報誌の予算がゼロだったので、必要な機材、印刷代等を生み出すために協賛広告を取ることとなりました。気持ちよく協力してくれたところもありましたが、条件をつけられ、苦勞して協賛をしてもらえたこともありました。

司会 版下制作については、当初菅原さんがなされたのでしたね。

菅原 初めてだったので、編集・入力方法などをプロの業者を紹介してもらったりして、ボランティアで教えてもらいながら行いました。やっているうちに楽しくなってきました。原稿の最終的なレイアウト作成を担いました。

吉岡 校正などを通じて、今まで気にしていなかったことに気がつくようになりました。まちがいなどにも読者の反応があり、鍛えられました。

菅原 情報誌の刊行を区長が評価してくれたとか、公共誌に広告を載せるきっかけにもなったとかの話聞いてうれしかった。郵便局に置けることになったこともよかった。

吉岡 そのような評価を聞くと、当時の苦勞がよみがえり、うれしい思いがします。今後も、運営協議会の主張があり、他の施設との違いがわかる情報誌であってほしい。単なる情報・イベントの発信のみになってしまうと貸館との違いがなくなり、役割を失う危惧を感じます。

河合・大間・永島・佐藤 刷新版(16号から19号)については、引き継ぐ課題を検討しました。アンケートを行い、刷新の方向を探りました。その結果、「すっきり見やすくわかりやすく」のコンセプトで改訂し



座談会風景

